

教 育 方 針

1. 豊かな心と優れた感受性を持ち、学生として自主的な責任ある行動と規律正しい生活ができる人間に育てる。
2. 自らの専門分野の知識と幅広い知識を持ち、適切な手段を用いて課題解決に対応できる人間に育てる。
3. 実技教育を重視し、理論に裏打ちされた創造力と豊かな国際性を身につけた実践的な能力ある人間に育てる。
4. “もの”を新たに創造するために必要な総合的能力を有する人間に育てる。



校章の由来

本校は、常盤湖西岸にあります。常盤湖の白鳥は周囲の松の緑を背景に優雅な姿をうかべ、宇部市の象徴として私たちの眼を楽しませてくれます。

わが校章は、その白鳥二枚の羽を形どり、中央には勉学を意味するペン先をえがき、産業の興隆と文化の発展に雄々しく羽ばたく姿を表しています。



シンボルマークの由来

本校の創立50周年を記念して作られました。宇部高専の頭文字Uを、未来へ向かってはばたく躍動感をもって表し、そのU字形のなかに光と希望を示す星型のモチーフを配して包み込んだ非対称の形で、さわやかなブルー系の色によってこの理念をシンプルに表現しています。

学習・教育到達目標
(機械工学科、電気工学科、制御情報工学科、物質工学科)
(生産システム工学専攻、物質工学専攻)

創造力をそなえ、「もの」づくりを得意とする人間性豊かな人材の育成をめざす

創造力をそなえた技術者をめざすために

- (A) 好奇心と探求心を常にもち、実践的技術者に必要な科学的基礎知識を身につける。(好奇心)
- (B) 実践的技術者に必要な情報技術を応用できる能力を身につける。(情報技術)

「もの」づくりを得意とする技術者をめざすために

- (C) 現象を論理的に理解し、解析できる能力を身につける。(解析能力)
- (D) 幅広い知識や技術を集約して、新しい「もの」を立案できる能力を身につける。(立案能力)
- (E) 社会の要求に応じて「もの」を実現できる能力を身につける。(実現能力)

人間性豊かな技術者をめざすために

- (F) 的確なコミュニケーション力を身につける。(コミュニケーション能力)
- (G) 自分の役割を理解して、チームで仕事をするための能力を身につける。(チームワーク)
- (H) 社会的責任をもち、人類や環境に技術及び企業活動が与える影響を理解し、行動できる能力を身につける。(技術者倫理)
- (I) 新しい「もの」の創造・開発に向けて粘り強く努力を継続できる能力を身につける。(持続力)

※ここでいう「もの」には、機械・機器などのハードウェアおよび材料・物質のみならず、情報処理、計測、システム構築などのソフトウェアが含まれる。

学習・教育到達目標
(経営情報学科)
(経営情報工学専攻)

創造力をそなえ、「もの」づくりを得意とする人間性豊かな人材の育成をめざす

創造力をそなえた人材をめざすために

- (A) 好奇心と探求心を常にもち、企業管理に必要な科学的基礎知識を身につける。
(好奇心)
- (B) 企業管理に必要な情報技術を応用できる能力を身につける。(情報技術)

「もの」づくりを得意とする人材をめざすために

- (C) 現象を論理的に理解し、解析できる能力を身につける。(解析能力)
- (D) 幅広い知識や技術を集約して、新しい「もの」を立案できる能力を身につける。
(立案能力)
- (E) 社会の要求に応じて「もの」を実現できる能力を身につける。(実現能力)

人間性豊かな人材をめざすために

- (F) 的確なコミュニケーション力を身につける。(コミュニケーション能力)
- (G) 自分の役割を理解して、チームで仕事をするための能力を身につける。(チームワーク)
- (H) 社会的責任をもち、人類や環境に技術及び企業活動が与える影響を理解し、行動できる能力を身につける。(職業倫理)
- (I) 新しい「もの」の創造・開発に向けて粘り強く努力を継続できる能力を身につける。(持続力)

※ここでいう「もの」には、有形の財のみならず、無形のサービスを含む。

本科ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）

【機械工学科】

機械工学科は、工業製品の研究開発、設計、生産技術などに係わる実践的技術者を育成します。本校は、以下のような能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定します。

1. 実践的技術者に必要な科学的基礎知識

- (1) 好奇心と探求心を常にもち、基礎となる数学、物理、化学の知識と理解力を身につけ、論理的なものの見方や考え方ができる。
- (2) 情報リテラシー、基礎的な情報処理技術、および情報論理の基礎的な知識を習得し、各種データの解析ができる。

2. 工学的専門基盤知識

- (1) 専門分野の基礎を学び、実験結果や簡単な自然現象、工学現象、社会事象を解析できる。
- (2) 専門分野における力学系コア科目を習得している。

3. 社会実装に応用・実践できる力

- (1) 専門分野の知識を習得し、物事の立案に役立てることができる。
- (2) 専門分野に関する応用的・先端的技術に触れ、実験技術を十分活用することができる。

4. 自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力

- (1) 作文、プレゼンテーション、ディベートができる日本語表現力を身につけ、英語による基礎的なコミュニケーションがとれる。
- (2) 周囲との協調・コミュニケーションを通してチームで問題解決を図ることができる。

5. リベラルアーツ、国際的素養および生涯にわたって自ら学ぶ力

- (1) 国内外の社会、文化、歴史、政治経済、環境を学び、幅広い教養と倫理を身につけ国際的な視点から物事を理解できる。
- (2) 新しい知識・技術を主体的に習得し、課題に挑戦し続けることができる。

【電気工学科】

電気工学科は、電力、電子・制御、情報・通信などの分野の実践的電気技術者を育成します。本校は、以下のような能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定します。

1. 実践的技術者に必要な科学的基礎知識

- (1) 好奇心と探求心を常にもち、基礎となる数学、物理、化学の知識と理解力を身につけ、論理的なものの方や考え方ができる。
- (2) 情報リテラシー、基礎的な情報処理技術、および情報論理の基礎的な知識を習得し、各種データの解析ができる。

2. 工学的専門基盤知識

- (1) 専門分野の基礎を学び、実験結果や簡単な自然現象、工学現象、社会事象を解析できる。

3. 社会実装に応用・実践できる力

- (1) 専門分野の知識を習得し、物事の立案に役立てることができる。
- (2) 専門分野に関する応用的・先端的技術に触れ、実験技術を十分活用することができる。

4. 自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力

- (1) 作文、プレゼンテーション、ディベートができる日本語表現力を身につけ、英語による基礎的なコミュニケーションがとれる。
- (2) 周囲との協調・コミュニケーションを通してチームで問題解決を図ることができる。

5. リベラルアーツ、国際的素養および生涯にわたって自ら学ぶ力

- (1) 国内外の社会、文化、歴史、政治経済、環境を学び、幅広い教養と倫理を身につけ国際的な視点から物事を理解できる。
- (2) 新しい知識・技術を主体的に習得し、課題に挑戦し続けることができる。

【制御情報工学科】

制御情報工学科は、情報通信技術を駆使し、ロボットなどの制御システムを構築できる実践的情報技術者を育成します。本校は、以下のような能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定します。

1. 実践的技術者に必要な科学的基礎知識

- (1) 好奇心と探求心を常にもち、基礎となる数学、物理、化学の知識と理解力を身につけ、論理的なものの見方や考え方ができる。
- (2) 情報リテラシー、プログラミングを含む基礎的な情報処理技術の知識を習得し、各種データを解析できる。

2. 工学的専門基盤知識

- (1) 専門分野の基礎を学び、実験結果や簡単な自然現象、工学現象、社会事象を解析できる。
- (2) 専門分野における情報系コア科目とシステム系コア科目を習得している。

3. 社会実装に応用・実践できる力

- (1) 計測工学、制御工学、システム設計などシステム開発に関する知識や技術を習得し、情報技術を含めて物事の立案に役立てることができる。
- (2) 専門分野に関する応用的・先端的技術に触れ、実験技術を十分活用することができる。

4. 自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力

- (1) 作文、プレゼンテーション、ディベートができる日本語表現力を身につけ、英語による基礎的なコミュニケーションがとれる。
- (2) 周囲との協調・コミュニケーションを通してチームで問題解決を図ることができる。

5. リベラルアーツ、国際的素養および生涯にわたって自ら学ぶ力

- (1) 国内外の社会、文化、歴史、政治経済、環境を学び、幅広い教養と倫理を身につけ国際的な視点から物事を理解できる。
- (2) 新しい知識・技術を主体的に習得し、課題に挑戦し続けることができる。

【物質工学科】

物質工学科は、化学工業または生物工業における開発、生産などに係わる実践的技術者を育成します。本校は、以下のような能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定します。

1. 実践的技術者に必要な科学的基礎知識

- (1) 好奇心と探求心を常にもち、基礎となる数学、物理、化学の知識と理解力を身につけ、論理的なものの見方や考え方ができる。
- (2) 情報リテラシー、基礎的な情報処理技術、および情報論理の基礎的な知識を習得し、各種データの解析ができる。

2. 工学的専門基盤知識

- (1) 化学、生物、専門分野の基礎を学び、実験結果や簡単な自然現象、工学現象、社会事象を解析できる。

3. 社会実装に応用・実践できる力

- (1) 専門分野の知識を習得し、物事の立案に役立てることができる。
- (2) 専門分野に関する応用的・先端的技術に触れ、実験技術を十分活用することができる。

4. 自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力

- (1) 作文、プレゼンテーション、ディベートができる日本語表現力を身につけ、英語による基礎的なコミュニケーションがとれる。
- (2) 周囲との協調・コミュニケーションを通してチームで問題解決を図ることができる。

5. リベラルアーツ、国際的素養および生涯にわたって自ら学ぶ力

- (1) 国内外の社会、文化、歴史、政治経済、環境を学び、幅広い教養と倫理を身につけ国際的な視点から物事を理解できる。
- (2) 新しい知識・技術を主体的に習得し、課題に挑戦し続けることができる。

【経営情報学科】

経営情報学科は、経済社会と情報技術の発展に対応し得る実践的知識と技術を有するビジネスパーソンを育成します。本校は、以下のような能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定します。

1. 実践的なビジネスパーソンに必要な科学的基礎知識

- (1) 好奇心と探求心を常にもち、基礎となる数学、社会科学の知識を身につけ、論理的なものの見方や考え方ができる。
- (2) 情報リテラシー、基礎的な情報処理技術の知識を習得し、各種データの解析ができる。

2. ビジネス分野の専門基盤知識

- (1) 簿記・会計の基礎を学び、企業の資金の流れを論理的に理解できる。
- (2) プログラミングや情報システムの基本が理解できる。
- (3) 数理統計や経営学の基礎を学び、社会事象を分析できる。

3. 社会実装に応用・実践できる力

- (1) 専門分野の知識を習得し、物事の立案に役立てることができる。
- (2) 専門分野に関する応用的・先端的技術に触れ、物事の実現に必要な事項が理解できる。

4. 自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力

- (1) 作文、プレゼンテーション、ディベートができる日本語表現力を身につけ、英語による基礎的なコミュニケーションがとれる。
- (2) 周囲との協調・コミュニケーションを通してチームで問題解決を図ることができる。

5. リベラルアーツ、国際的素養および生涯にわたって自ら学ぶ力

- (1) 国内外の社会、文化、歴史、政治経済、環境を学び、豊かな教養と倫理を身につけ、国際的な視点から物事を理解できる。
- (2) 新しい知識・技術を主体的に習得し、課題に挑戦し続けることができる。

本科カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

【機械工学科】

機械工学科では、専門基礎に関わる能力に加え、電子情報技術の進展にも対応でき、かつ自主性・問題解決能力およびコミュニケーション能力を有する技術者を養成するために、一般科目と専門科目を体系的に配置したカリキュラムにより、以下の教育目標に沿った教育課程を編成します。

1. 実践的技術者に必要な科学的基礎知識を修得できるように
 - (1) 低・中学年次に化学や物理、数学などの自然科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
 - (2) 低学年次に情報リテラシーに関する基礎情報系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
2. 工学的専門基盤知識を修得できるように
 - (1) 初年次に専門導入とキャリア教育を行う科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
 - (2) 低・中学年次に専門基礎科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
 - (3) 中・高学年時に力学系コア科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
3. 社会実装に応用できる能力を身につけられるように
 - (1) 中・高学年次に機械工作・機械材料に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
 - (2) 中・高学年次に設計工学・機械要素に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
 - (3) 中・高学年次に電気工学・計測制御に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
 - (4) 全学年を通して機械工学に関する実験・実習科目群を編成する。
4. 論理的説明力、周囲との協調性および自ら学ぶ力を身につけられるように
 - (1) 低学年次から高学年次にかけてプロジェクトベースの科目を設け、これをグループ学習により展開する。
 - (2) 高学年次に卒業研究を設け、新規課題への取り組み、自主的な学習・研究能力、問題解決能力およびプレゼンテーション能力を育成する観点から、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。
5. リベラルアーツ、国際的素養を身につけられるように
 - (1) 低・中学年次に幅広い教養を身につけるために人文社会系科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。
 - (2) 低・中学年次にライフ／アースサイエンス、環境問題などのリベラルアーツおよびジェネリックスキルに関する科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。あわせて、これら科目では普遍的に有用性をもつ能力や分野横断的能力を涵養する。
 - (3) 低・中学年次に外国語（英語）科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開

する。

<成績評価方法に関する方針>

1. 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、演習・レポートなどの平常の取り組みと定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
2. 初年次教育、キャリア教育およびジェネリックスキルを涵養する科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、レポートを主とした評価方法により到達目標に対する到達度を評価する。
3. 実技・実験・実習・演習およびプロジェクトベース科目などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
4. 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

<成績の評価および単位認定基準>

上記の教育課程を編成する各科目の学修の成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載された評価方法に沿って総合的に評価します。成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定します。成績評価の評語は次の基準によるものします。

優	80点以上
良	70点以上 80点未満
可	60点以上 70点未満
不可	60点未満

【電気工学科】

電気工学科では、専門基礎に関わる知識に加え、変化の激しい情報・通信技術や電子デバイスの分野にも対応でき、かつ自主性・問題解決能力およびコミュニケーション能力を有する技術者を養成するために、一般科目と専門科目を体系的に配置したカリキュラムにより、以下の教育目標に沿った教育課程を編成します。

1. 実践的技術者に必要な科学的基礎知識を修得できるように

- (1) 低・中学年次に化学や物理、数学などの自然科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (2) 低学年次に情報リテラシーに関する基礎情報系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。

2. 工学的専門基盤知識を修得できるように

- (1) 初年次に専門導入とキャリア教育を行う科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (2) 低・中学年次に専門基礎科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。

3. 社会実装に応用できる能力を身につけられるように

- (1) 中・高学年次に発電や送電などの電力システム技術に関する電力系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (2) 中・高学年次に電子デバイスや電子回路技術およびシーケンスなどの制御技術に関する電子・制御系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (3) 中・高学年次に情報処理技術やコンピュータ、信号通信に関する情報・通信系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (4) 専門知識と技術を結びつけるために、全学年を通して電力、電子・制御、情報・通信分野の実験実習・演習科目群を編成する

4. 論理的説明力、周囲との協調性および自ら学ぶ力を身につけられるように

- (1) 低学年次から高学年次にかけてプロジェクトベースの科目を設け、これをグループ学習により展開する。
- (2) 高学年次に卒業研究を設け、新規課題への取り組み、自主的な学習・研究能力、問題解決能力およびプレゼンテーション能力を育成する観点から、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。

5. リベラルアーツ、国際的素養を身につけられるように

- (1) 低・中学年次に幅広い教養を身につけるために人文社会系科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。
- (2) 低・中学年次にライフ/アースサイエンス、環境問題などのリベラルアーツおよびジェネリックスキルに関する科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。あわせて、これらの科目では普遍的に有用性をもつ能力や分野横断的能力を涵養する。
- (3) 低・中学年次に外国語（英語）科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。

<成績評価方法に関する方針>

1. 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、演習・レポートなどの平常の取り組みと定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
2. 初年次教育、キャリア教育およびジェネリックスキルを涵養する科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、レポートを主とした評価方法により到達目標に対する到達度を評価する。
3. 実技・実験・実習・演習およびプロジェクトベース科目などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
4. 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

<成績の評価および単位認定基準>

上記の教育課程を編成する各科目の学修の成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載された評価方法に沿って総合的に評価します。成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定します。成績評価の評語は次の基準によるものします。

優	80点以上
良	70点以上 80点未満
可	60点以上 70点未満
不可	60点未満

【制御情報工学科】

制御情報工学科では、第1学年から第5学年まで一貫した「組込みシステム」に関する講義・実験・実習に取り組みます。これらの学修を通して身につけた情報系・システム系に関する知識・技術に加え、自主性・問題解決能力およびコミュニケーション能力を有する技術者を養成するために、一般科目と専門科目を体系的に配置したカリキュラムにより、以下の教育目標に沿った教育課程を編成します。

1. 実践的技術者に必要な科学的基礎知識を修得できるように

- (1) 低・中学年次に化学や物理、数学などの自然科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (2) 低学年次に情報リテラシーに関する基礎情報系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (3) 低・中学年次にプログラミング系基礎科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。

2. 工学的専門基盤知識を修得できるように

- (1) 初年次に専門導入とキャリア教育を行う科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (2) 低・中学年次に専門基礎科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (3) 中・高学年次に情報系コア科目およびシステム系コア科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。

3. 社会実装に応用できる能力を身につけられるように

- (1) 中・高学年次に計測工学、制御工学など幅広いシステム系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (2) 高学年次に音声処理、システム設計等の専門分野に関する応用・先端技術系の科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (3) 専門知識と技術を結びつけるために、全学年を通して実験・実習系科目群を編成する。

4. 論理的説明力、周囲との協調性および自ら学ぶ力を身につけられるように

- (1) 低学年次から高学年次にかけてプロジェクトベースの科目を設け、これをグループ学習により展開する。
- (2) 高学年次に卒業研究を設け、新規課題への取り組み、自主的な学習・研究能力、問題解決能力およびプレゼンテーション能力を育成する観点から、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。

5. リベラルアーツ、国際的素養を身につけられるように

- (1) 低・中学年次に幅広い教養を身につけるために人文社会系科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。
- (2) 低・中学年次に異文化・多文化理解や環境問題などのリベラルアーツおよびジェネリックスキルに関する科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。あわせて、これら科目では普遍的に有用性をもつ能力や分野横断的能力を涵養する。
- (3) 低・中学年次に外国語（英語）科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。

<成績評価方法に関する方針>

1. 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、演習・レポートなどの平常の取り組みと定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
2. 初年次教育、キャリア教育およびジェネリックスキルを涵養する科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、レポートを主とした評価方法により到達目標に対する到達度を評価する。
3. 実技・実験・実習・演習およびプロジェクトベース科目などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
4. 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

<成績の評価および単位認定基準>

上記の教育課程を編成する各科目の学修の成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載された評価方法に沿って総合的に評価します。成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定します。成績評価の評語は次の基準によるものします。

優	80点以上
良	70点以上 80点未満
可	60点以上 70点未満
不可	60点未満

【物質工学科】

物質工学科では、化学と生物の二つの専門性を身につけることを目標として、低学年次から座学、実験等の本格的な専門教育が始まり、中学年次までに大学レベルの基礎知識を習得します。これらの学修を通して身につけた化学品の設計や製造、食品や医薬品の検査、環境保全に関する知識・技術に加え、自主性・問題解決能力およびコミュニケーション能力を有する技術者を養成するために、一般科目と専門科目を体系的に配置したカリキュラムにより、以下の教育目標に沿った教育課程を編成します。

1. 実践的技術者に必要な科学的基礎知識を修得できるように

- (1) 低・中学年次に化学や物理、数学などの自然科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (2) 低学年次に情報リテラシーに関する基礎情報系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。

2. 工学的専門基盤知識を修得できるように

- (1) 初年次に専門導入とキャリア教育を行う科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (2) 低・中学年次に専門基礎科目のうち化学系の無機化学、有機化学、物理化学など、生物系の生物化学、基礎微生物学などを設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。

3. 社会実装に応用できる能力を身につけられるように

- (1) 高学年次に化学品の設計や製造に関する高分子化学、無機材料化学、化学工学などの科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (2) 中・高学年次に食品や医薬品の検査に関する分析化学、微生物学や分子生物学などの科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。高学年次に環境保全に関する基礎環境科学を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (3) 全学年に知識と技術を結びつける実験実習科目群を編成する。

4. 論理的説明力、周囲との協調性および自ら学ぶ力を身につけられるように

- (1) 低学年次から高学年次にかけてプロジェクトベースの科目を設け、これをグループ学習により展開する。
- (2) 高学年次に卒業研究を設け、新規課題への取り組み、自主的な学習・研究能力、問題解決能力およびプレゼンテーション能力を育成する観点から、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。

5. リベラルアーツ、国際的素養を身につけられるように

- (1) 低・中学年次に幅広い教養を身につけるために人文社会系科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。
- (2) 低・中学年次にライフ／アースサイエンス、環境問題などのリベラルアーツおよびジェネリックスキルに関する科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。あわせて、これら科目では普遍的に有用性をもつ能力や分野横断的能力を涵養する。
- (3) 低・中学年次に外国語（英語）科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。

＜成績評価方法に関する方針＞

1. 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、演習・レポートなどの平常の取り組みと定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
2. 初年次教育、キャリア教育およびジェネリックスキルを涵養する科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、レポートを主とした評価方法により到達目標に対する到達度を評価する。
3. 実技・実験・実習・演習およびプロジェクトベース科目などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
4. 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

＜成績の評価および単位認定基準＞

上記の教育課程を編成する各科目の学修の成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載された評価方法に沿って総合的に評価します。成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定します。成績評価の評語は次の基準によるものします。

優	80点以上
良	70点以上 80点未満
可	60点以上 70点未満
不可	60点未満

【経営情報学科】

経営情報学科では、「経営」と「情報」の融合したカリキュラムにより経営に関する科学的な思考力やシステム開発技術を身につけ、かつ自主性・問題解決能力およびコミュニケーション能力を有するビジネスパーソンを養成するために、一般科目と専門科目を体系的に配置したカリキュラムにより、以下の教育目標に沿った教育課程を編成します。

1. 実践的なビジネスパーソンに必要な科学的基礎知識を修得できるように

- (1) 低学年次に基礎科学系科目を配置する。低・中学年次に化学や物理、数学や社会科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (2) 低学年次に基礎情報系科目を配置する。低学年次に情報リテラシーに関する基礎情報系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。

2. ビジネス分野に関する専門基盤知識を修得できるように

- (1) 初年次に専門導入とキャリア教育を行う科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (2) 低・中学年次に簿記・会計に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (3) 低・中学年次にプログラミング系基礎科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (4) 中学年次に数理モデル構築の基礎となる数理統計に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。

3. 社会実装に応用できる能力を身につけられるように

- (1) 中・高学年次に企業モデルに関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (2) 高学年次に数理モデル構築のため経済・経営理論に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。
- (3) 高学年次に経営学・情報学を複合した演習系科目群を編成する

4. 論理的説明力、周囲との協調性および自ら学ぶ力を身につけられるように

- (1) 低学年次から高学年次にかけてプロジェクトベースの科目を設け、これをグループ学習により展開する。
- (2) 高学年次に卒業研究を設け、新規課題への取り組み、自主的な学習・研究能力、問題解決能力およびプレゼンテーション能力を育成する観点から、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。

5. リベラルアーツ、国際的素養を身につけられるように

- (1) 低・中学年次に幅広い教養を身につけるために自然科学並びに人文系科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。
- (2) 低・中学年次にライフ／アースサイエンス、環境問題などのリベラルアーツおよびジェネリックスキルに関する科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。あわせて、これら科目では普遍的に有用性をもつ能力や分野横断的能力を涵養する。
- (3) 低・中学年次に外国語（英語）科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。

- (4) 高学年次に国際化知識を修得するための科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。

<成績評価方法に関する方針>

1. 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、演習・レポートなどの平常の取り組みと定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
2. 初年次教育、キャリア教育およびジェネリックスキルを涵養する科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、レポートを主とした評価方法により到達目標に対する到達度を評価する。
3. 実技・実験・実習・演習およびプロジェクトベース科目などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
4. 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

<成績の評価および単位認定基準>

上記の教育課程を編成する各科目の学修の成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載された評価方法に沿って総合的に評価します。成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定します。成績評価の評語は次の基準によるものします。

優	80点以上
良	70点以上 80点未満
可	60点以上 70点未満
不可	60点未満